

秋成は
のり

天理ギャラリー第一四〇回展

秋成

―上田秋成没後二〇〇年によせて―



きんぎょ
のり

天理ギャラリー

天理ギャラリー第140回展

秋成

—上田秋成没後200年によせて—

天理ギャラリー第140回展にあたり「秋成—上田秋成没後200年によせて—」を開催致します。

不遇の子に生まれた秋成が、養家父母の慈愛を受け、天下孤高の文人として死を迎えるまでに筆を染めた作品の数々をご覧頂きたいと思ひます。

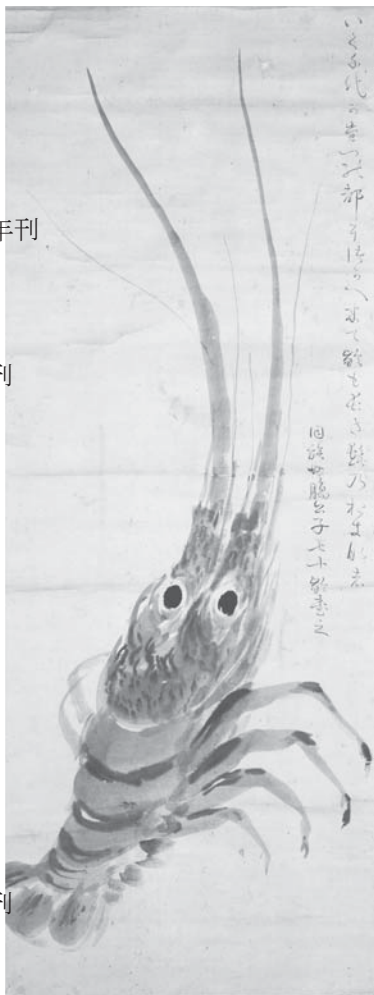
幼くして商家の養子となった秋成は、大阪町人としての気概を秘めた、放蕩無頼の浮浪子の生活を送りながらも、俳諧への興味を契機に、文人への道を歩み始めます。富士谷成章らを友とし、加藤宇万伎や都賀庭鐘に教えを請ひ、蕪村・几董などの俳人や木村兼葭堂、大田南畝等と交遊を深めてゆきました。代表作となった『雨月物語』や『春雨物語』の執筆のみならず、句を投げ、国学を学び、医術を修め、国史を説き、歌を詠み、煎茶を嗜むなど、その興味の尽きる所はありません。狷介峭直とも評され、自らを曲げぬ合理主義に根差した生き方は、その著書からも窺ひ知ることが出来ます。

昨年、没後200年を迎えたこの機会に、館蔵書の中から自筆資料を中心に逸品を精選・展示致しました。稀代の鬼才上田秋成の世界をご堪能頂ければ幸いです。

天理図書館

出品リスト

自伝 自筆 文化5年写
 蛙田研
 除元吟 白羽編 宝暦3年刊
 俳諧十六日 茶雷編 宝暦5年刊
 はなしあいて 几圭編 宝暦8年刊
 雪達摩 舞雪編 宝暦12年刊
 続明烏 几董編 安永5年刊
 俳諧発句むかし口 上田秋成編 安永6年刊
 から檜葉 几董編 天明4年刊
 雁風呂 呂蛤編 寛政6年刊
 也哉鈔 上田秋成著 天明7年刊
 俳調義論 上田秋成著 文化8年写
 諸道聴耳世間猿 上田秋成著 明和3年刊
 世間妾形気 上田秋成著 明和4年刊
 雨月物語 上田秋成著 安永5年刊
 書初機嫌海 上田秋成著 天明7年刊
 癩癩談 上田秋成著 文政5年刊
 ますらを物語 自筆 文化4年写
 春雨物語 自筆 富岡本
 春雨物語残卷 自筆
 春雨物語残缺 自筆
 つゝら文 自筆
 藤簾冊子 上田秋成著 文化4年刊
 付. 題簽版木
 海道狂歌合 自筆 文化2年写
 付. 海道狂歌合 文化8年刊
 鶉居倭哥集 自筆
 秋の雲 稿 自筆 文化4年写
 秋の雲 自筆 文化4年写
 安々言 自筆 寛政4年序
 靈語通 仮字篇 上田秋成著 寛政9年刊
 冠辞続紹 上田秋成著 享和元年刊
 遠駝延五登 自筆
 金砂 付金砂剩言 自筆 享和4年写



神代がたり残稿 自筆 文化6年刊
 雨夜物語だみこと葉 加藤宇万伎著 安永6年刊
 あがた居の哥集 賀茂真淵著・しつ屋の哥集
 加藤宇万伎著 寛政3年刊
 伊勢物語古意 付豫之也安志夜 賀茂真淵著
 寛政5年刊
 清少納言家集中 上田秋成筆 文化元年写
 万葉集見安補正 池永泰良著 文化6年刊
 清風瑣言 上田秋成著 寛政6年刊
 茶痕酔言 自筆
 [茶匙朝雀詩歌] 自筆
 茶侶十四個 自筆
 尾張人大館高門へ答ふ 自筆 文化2年写
 煎茶之記 自筆 文化4年写
 浅間煙 自筆
 いははし 自筆
 仰観俯察室記 自筆
 御嶽さうじ 自筆 寛政11年写
 風鈴詞 自筆 享和3年写
 胆大小心録 自筆
 胆大小心録 上田秋成著 鹿田本
 露分衣 瑚璉尼著 上田秋成筆 寛政10年写
 夏のゝ露 瑚璉尼著 上田秋成筆 寛政10年写
 無腸居士肖像 土佐秀信画、慈雲賛 天明6年写
 [吉野山和歌懐紙] 自筆 享和元年写
 吉野山歌文 自筆
 茶筌自画賛 自筆
 海老画賛 自筆 享和3年写
 吉野行 自筆 文化3年写
 たが齡画賛 細合半齋画、上田秋成賛
 秋の夜おもひを述る歌 自筆 文化6年写
 上田無腸自画肖像 自筆 文化5年写
 詠霍公鳥 自筆

トンコリ (蝦夷琴)

2010年5/16(日)～6/13(日)

9時30分～17時30分 会期中無休 入場無料

※閉館の30分前迄にご入場下さい。

(展覧会案内HP) <http://www.tcl.gr.jp/>

〒101-0054

東京都千代田区神田錦町1-9

東京天理教館9階

天理ギャラリー

TEL: 03-3292-7025

—JR—

神田駅西口

—東京メトロ—

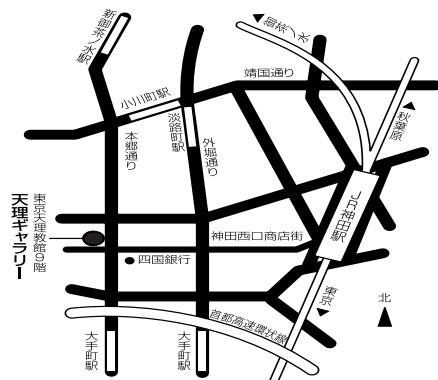
千代田線新御茶ノ水駅

丸ノ内線淡路町駅

—都営—

新宿線小川町駅

アクセス



【講演会】

5月29日(土) 午後2時より

「断簡零墨の中の秋成—『鶉居帖』の楽しみ—」

講師 長島弘明氏(東京大学教授)